

中央新幹線環境影響評価準備書【静岡県】に対する 環境影響評価審査会委員の質問等への回答

「◎」国土交通省令における参考項目、「○」参考項目以外に事業者が追加した項目、「-」参考項目であるが選定しなかった項目、「●」準備書において新たに選定した項目

環境要素の区分		選定項目	No.	委員質問等	回答
大気環境	大気質	二酸化窒素、浮遊粒子状物質	○	-	
		粉じん等	◎	-	
	騒音	騒音	◎	-	
	振動	振動	◎	-	
	悪臭	悪臭	-	-	
	その他	微気圧波 その他	-	-	
水環境	水質	水の濁り	○	1	<p>【金川委員】要約書(6-7) 濁水については必要に応じて適切に処理するとあるが、具体的にどのような方策を考えているのか。</p> <p>工事により発生する濁水については、必要に応じて濁水処理設備、沈砂池を設置し、法令に基づく排水基準等を踏まえ、適切に処理をして河川へ排水することを考えています。</p> <p>また、水質管理を徹底するため水の濁りを監視して処理状況を定期的に確認することや、処理装置の適切な点検・整備による性能維持により排水の適正処理を徹底します。</p> <p>具体的な計画については、今後、工事の詳細な内容を固めていく段階で検討してまいります。</p>
			○	2	<p>【宗林委員】8-2-1-3 ページ:表 8-2-1-2 (2)の備考に「調査結果に影響を及ぼす降水は確認されなかった」と書いてありますが、調査当日が晴れであったことがその根拠でしょうか？ そうだとしたら、調査前の気象状況についても記載する必要がありますかと思えます。</p> <p>「調査結果に影響を及ぼす降水は確認されなかった。」とは、現地調査日前の気象状況も含め、調査結果に影響を及ぼす降水が確認されなかったことを示しています。なお、観測前に目視で河川の状況についても確認しています。</p>
		水の汚れ	○	3	<p>【伊吹委員】先日の視察の際に、300人程の宿舎ができることが説明されていたが、そこからの廃水などの影響評価はどこに含まれているのか。</p> <p>宿舎からの排水による影響の予測については、「第8章 水質 水の汚れ 工事施工ヤード及び工事用道路の設置」において、工事施工ヤードの設置に係る生物化学的酸素要求量(BOD)について、完全混合式により定量的に予測しました。</p> <p>なお工事施工ヤード(宿舎)からの排水量は、工事施工ヤード(宿舎)の設置の想定規模から設定しました。</p>
	底質	水底の底質	●	-	
地下水	地下水の水位及び水質	○	4	<p>【伊吹委員】一部の地域で影響があると予測されている(8-2-3-14)。事業者の実行可能な範囲内で低減が図られていると記載されているが、実行可能な範囲で低減されればそれでいいのか。また、この場合、薬液注入工法が最適であると評価する理由などの説明をお願いしたい。</p> <p>本事業の評価は、環境影響評価法や主務省令に基づき、 ①国や自治体が定めている基準・目標などがある場合、それらとの整合が図られているか ②環境保全措置を講じることにより、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減が図られているかの2点に着目して行っています。</p> <p>事業者としては、基準値をクリアするだけでなく、科学的知見、経済性、施工性等を総合的に踏まえて実行可能な範囲で対策を実施し、影響の低減に努めてまいります。</p> <p>また、環境保全措置の「薬液注入工法における指針の順守」は、薬液注入工法を施工する際は「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針」(昭和49年7月、建設省)に基づき適切に実施することで地下水の水質への影響を低減できることから、環境保全措置としました。</p>	

生活環境(環境の自然的構成要素)

環境要素の区分		調査項目	No.	委員質問等	回答
水環境	その他	水資源	○	8	<p>【和田委員】8-2-4-3 ページ:水資源へのトンネルの影響については、具体的な方法を知りたい。上記データが基本となる。二軒小屋の水は、富士川水系に送られている影響は、かつてあったか?水生生物への影響は。</p> <p>水資源(河川流量・井戸水位)への影響については水収支解析を用いて、大気、地盤中の水循環をモデル化することで予測を実施しました。</p> <p>水収支解析モデルは、鉄道技術研究所が開発したプログラム(トンネル掘きに伴う湧水とそれに伴う水収支変化に関する水文地質学的研究(鉄道技術研究所報告、1983年3月))であり、山岳部のトンネルによる水への影響や、トンネル内の湧水量を定量的に解析することができません。詳細は、資料編(5-1 水収支解析について)に記載しています。</p> <p>また、二軒小屋の水が富士川水系に送られている影響がかつてあったかについては存じていません。</p> <p>水生生物への影響については、動物の項目において、トンネルからの湧水と河川の表流水との温度差はほとんどないことから、生息環境への影響は及ばない。」</p> <p>「鉄道施設の存在により、河川の一部で流量が減少するものの、生息環境への影響は小さい。」と予測しています。</p>
					9
その他	重要な地形及び地質	○	10	【和田委員】8-3-1-8 ページ:山梨県に於けるの須戸川帯は出ていないのか?そこには大きな断層が有る。	<p>準備書では、主要な活断層として、地質調査研究推進本部における活断層の活断層群調査資料及び「日本の活断層」(活断層研究会、1991)に記載している断層のうち、確実度又は活動度が高いものを記載しています。</p>
					【宗林委員】8-3-2-3頁:表8-3-2-3(1)の備考5と6の「同一試料」の意味がわかりません。同表のデータと同備考のデータは求め方がどう違うのでしょうか?
土壌に係る環境	地形及び地質	地盤沈下	-	-	
					土壌汚染

生活環境(環境の自然的構成要素)

環境要素の区分		調査項目	No.	委員質問等	回答
土壌に係る環境	土壌	土壌汚染	○	<p>【和田委員】8-3-2-2 ページ:地下水は酸性かアルカリ性か? 残土の影響をどのようにに検知するのか、どのくらいの期間で風化が起きると考えられているのか?水質は時間とともに変化すると考えるのか? 断層帯と、褶曲帯では何が違うと考えているか?</p>	<p>現地調査の結果、地下水のpHは弱アルカリ性(pH=7.7)となっています。 残土による地下水の水質への影響については、現地調査の結果、土壌汚染知策法に基づく指定基準に適合しなれない自然由来の重金屬等や酸性化のおそれのある土壌は確認されなかったため、影響はないと考えています。よって、工事中に土壌汚染に係る地下水の水質への影響を調査することは考えておりませんが、地質に着しい変化が見られた場合など、状況によってはモニタリング調査を検討します。 風化の速度は様々な要因により変化するため一概には言えませんが、「建設工事における自然由来重金屬等含有岩石・土壌への対応でニューラル(暫定版)」(平成22年3月建設工事における自然由来重金屬等含有土砂への対応でニューラル検討委員会)に基づく試験結果は基準値を満たしており、経年後も地下水への影響がないことを確認しています。 「建設工事における自然由来重金屬等含有岩石・土壌への対応でニューラル(暫定版)」(平成22年3月建設工事における自然由来重金屬等含有土砂への対応でニューラル検討委員会)では、基準値を上回るものが検出された場合、環境に影響を及ぼさないよう管理を行うことが前提となるため、地質構造の違いによる検討は行っていません。</p>
その他の環境	その他の環境要素	その他	—	—	—
		日照障害	—	—	—
		電波障害	—	—	—
		文化財	○	—	—
		境界	—	—	—
その他	—	—	—	—	
生活環境(環境の自然的構成要素)					
13	—	—	—	—	

環境要素の区分	調査項目	No.	要員質問書	回答
動物	重要な種及び注目すべき生息地	14	<p>【加須委員】タカネキマダラセセリ(環・YU)、クモヅマキチヨウ(環・NT)、ミヤマシロチヨウ(環・EN)、オオイチモンジ(環・YU)はいずれも南アルプスの精留果域が分布の南限になっている。しかも個体数は非常に限られ、絶滅の危険性が非常に高まっているのが現状である。それ以外の種の生息環境の保全は当然であり、食草・食樹が十分にあること、成虫の蜜源植物が十分にあることが必須である。またチヨウ類は、1ヶ所の食草・食樹生育地にとどまるわけではなく、複数の生育地を行き来する。残土処理等による植生への影響は、植物との関係が深いチヨウ類においては非常に大きい。</p> <p>重要な昆虫についての予測結果を見ると、落葉広葉樹林については一部に工事による改変あり、とされている。一部の改変は保全される、とあるが改変の箇所や質によっては大きな影響も考えられる。各種ごとの微小規模な環境要求についての配慮はなされているのか。また改変箇所の周辺は、たとえ保全されても改変の影響を受ける。改変箇所の周辺で確認された種については「生息環境は保全される」とは言い切れない。</p>	<p>動物の予測方法については、客観性を失わずにできる方法とし、結果として準備に記載の通りとなっています。環境の微妙な違いについては考慮しませんでしたが、改変の可能性のある範囲の周辺については間接的影響を考慮しており、予測方法は、直接的影響と間接的影響の両方を考慮しています。</p> <p>なお、特定の種の貴重な食草について、専門家等から個別の情報が得られれば、保全に配慮することを検討します。</p>
動物	重要な種及び注目すべき生息地	15	<p>【金川委員】要約書(6-8)人為的な移殖によりヤマトイワナとニッコウイワナが混在する場所では、外部形態では両亜種の同定は困難とされている。今回イワナの亜種の同定方法については専門家の助言を受けたとあるが、具体的にどのような助言があったか。</p>	<p>大井川水系のヤマトイワナとニッコウイワナの外形形態での同定について以下の①～④の助言を受けました。</p> <p>①体色:ヤマトイワナ→濃い又はやや暗い、ニッコウイワナ→やや暗い又は明るい</p> <p>②パーマータ:ヤマトイワナ→細長くてもいい又は細長だが少ない、ニッコウイワナ→細長だが少ない又は多くて少ない</p> <p>③体側有色斑紋:ヤマトイワナ→濃い朱紅色、ニッコウイワナ→淡い褐色又はごく淡くないしは認められない</p> <p>④体側白色斑紋:ヤマトイワナ→未成年では多少あっても成魚ではない、ニッコウイワナ→未成年・成魚とも体側から背方にかけてある</p> <p>ヤマトイワナの特徴に全て一致すればヤマトイワナ、ニッコウイワナの特徴に全て一致すればニッコウイワナ、中間的であれば交雑個体とみなしてイワナ類としました。</p> <p>調査結果ではヤマトイワナの特徴に比較的近い個体は捕獲されたものの、体側有色斑紋が薄い朱紅色ではなく、淡い褐色であったため、ヤマトイワナとはしませんでした。</p>

生物多様性、自然環境

環境要素の区分	測定項目	No.	調査質問等	回答
		16	<p>【金川委員】要約書(8-2-4-4)、準備書(5-47、8-2-3-11)</p> <p>西戻の流量が施工の影響で約70%に減少する。西戻の上流は無類のヤマトイワナの保護区(禁猟区)が設定されている。また西戻一帯の多くの枝沢はサンショウウオ類やカエル類の産卵場所、幼生の生育場所として使われる等、西戻は大井川上流でも生物の種多様性に富む地域であり、流量の減少が生態系に深刻な影響を与え、流量の減少が生態系に深刻な減少が予想されるのは、具体的に西戻のどの程度の範囲と考えているのか。またそれが生態系に与える影響をどのように低減または回避しようとしているのか。</p>	<p>流量の減少については、準備書第8章水資源(表8-2-4-5)に記載のとおり、概折の結果、西戻上流部(二軒小屋発電所取水堰上流)で河川流量に影響があると予測しています。</p> <p>対策については、環境保全措置として「適切な構造物及び工法の採用」「地下水等の監視」「代替水源の確保」を実施すること、トンネルの工事及び鉄道施設の存在による水質源に保る環境影響を低減できると考えています。</p> <p>なお、河川流量の変化による動物への影響については、動物の項において、河川や水迎で生息する哺乳類、鳥類、両生類、魚類、昆虫類、底生動物について、「鉄道施設」の存在により、河川の一部で流量が減少するものの、生息環境への影響は小さい、と予測しています。</p>
	○	17	<p>【金川委員】準備書(8-4-1-20)</p> <p>秋季の調査結果が「2目2科3種ウグイス、アズコ等」とあるがウグイス、アズコ以外の1種はなぜ記載されていないのか。調査地点の近くにはヤマトイワナが生息する支流がありヤマトイワナが採れていないのは不自然である。</p>	<p>秋季の調査時期はサテ科魚類の産卵期にあたるため、捕獲は行わず、目視調査としました。このため、目視によりイワナ類が確認されましたが、班紋による同定が十分に行えないため、準備書では「2目2科3種ウグイス、アズコ等」と記載しました。</p> <p>魚類に関する調査については、4季に亘り、投網、タモ網、釣りなどにより適切に実施しています。今回の調査範囲においては生息が確認されなかったものと考えています。</p> <p>ヤマトイワナの傾向が強い交雑種を確認しており、上流部や他の支流にヤマトイワナが生息している可能性があり、ヤマトイワナが強いニッコウイワナとの交雑が進んでいると考えられます。</p>
生物多様性、自然環境	動物	18	<p>【三宅(陸)委員】ほ乳類調査結果についてもっと詳しく内容を知りたい。報告書の内容と相違ないか精査したい</p> <p>(1)カワネズミの調査場所と、それぞれの捕獲結果</p> <p>(2)コウモリ類のハーブトラップ設置場所と、それぞれの捕獲された種類及び同定根拠と数量</p> <p>(3)その他のほ乳類調査についての調査結果についての詳細な記録を知らせること</p>	<p>事務局と打合せのうえ、非公開の場により詳細なデータを説明させて頂きました。更に詳細なデータについても具体的に必要性を提示頂いたものについてデータの整理を行っています。</p>

環境要素の区分		重要項目	No.	委員質問	回答	
生物多様性・自然環境	動物	重要な種及び注目すべき生息地	○	19	<p>【三宅(陸)委員】鳥類調査結果について(1)イヌワシの調査結果の詳細を(出現頻度、行動内容など)</p> <p>(2)クマタカの調査結果の詳細を(出現頻度、行動内容など)</p> <p>(3)その他の鳥類の調査結果についてその記録を知らせること</p> <p>イヌワシ、クマタカについて、生息環境の一部は保全されない可能性があるとあるが、これに対する詳しい説明を。保全対策はどのようなものか?</p>	<p>重要種の調査結果については、事務局と打合せのうえ、非公開の場であり詳細なデータをご説明させて頂きました。</p> <p>イヌワシ、クマタカ、クマタカ、クマタカについては準備書第8章に記載のとおり、繁殖及び営巣が確認されており、工事の実施に伴い人の移動、車両の通行が増加することから、生息環境の一部は保全されない可能性があると予測しました。</p> <p>環境保全措置として準備書第8章に記載のとおり、「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」する「工事に伴う変換区域をできる限り小さくする」「資材運搬等の適正化」「工事施工エヤード等の緑化」「防音シート」「低騒音・低振動型の建設機械の採用」「トンネル坑への防音土設置」「工事用トンネルの設置」「発生土運搬におけるベルトコンベア」の活用」「工事従事者への講習・指導」及び「コンクリート」「クマタカ」の実施を環境影響が回避又は低減されると考えています。</p>
植物	重要な種及び群落	○	-			
生態系	地域を特徴づける生態系	○	-			
景観	重要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	○	-			
	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	○	21	<p>【三宅(環)委員】準備書 8-5 人と自然との触れ合い(8-5-1-1)</p> <p>●環境保全措置の検討について</p> <p>表 8-5-2-5 環境保全措置の検討の状況として「構造形式に配慮する」とあるが具体的な事例があれば説明してほしい。</p> <p>また、同様に「周辺景観への形状等の調和の配慮」についても事例があれば説明してほしい。</p>	<p>準備書第7章に記載しました。専門家の選定にあたっては地域特性に配慮しました。</p> <p>県の審査会、市の専門家会議で専門家から得られた情報についても保全措置を具体化して行く段階などで考慮する予定です。</p> <p>構造形式についての具体的な内容については、工事の詳細な内容や設計を固めていく段階で検討していきます。周辺景観への形状等の調和の配慮についても従いまして現時点では特岡県における鉄道施設である非常口については、周囲に受け込むように考慮したり、植林により視界に入りこくしたりすることなどを考えています。</p>	
人と自然の触れ合いの場		○	21			

環境要素の区分		調査項目	No.	委員質問等	回答	
廃棄物 建設工事に伴う副産物	O	24	22	【杉山委員】「表 7-1-2 「工事施工ヤード及び工事用道路の設置」について、「廃棄物等」を評価項目に含める必要はないのか。	「トンネルの工事」において、工事施工ヤード及び工事用道路(トンネル)から発生する廃棄物等について評価を実施しています。	
			23	【杉山委員】「9-25 表 9-6-1 コシクラート塊についての検討結果が示されていない。建設汚泥の脱水処理はどこで行われるのか。水質への影響はないのか。」	準備書では、掘削に伴う濁水処理により発生する汚泥を建設汚泥としており、建設汚泥は既設の施設へ持ち出すことを想定しています。 また、水質への影響について、濁水処理をする場合は、法令に基づき排水基準等を踏まえ、適切に処理して河川へ排水することから、水の濁りへの影響は小さいと考えられています。	
環境への負荷				24	【三宅(澤)委員】準備書 8-8 環境への負荷(8-6-1-1) ●建設発生土(残土)の処理について ①表 8-6-1-4 本事業における廃棄物、再資源化等の目標で、建設発生土は、有効利用率 90%となっているが、その数値の可能性の裏付けについて説明してほしい。 ②環境保全処置として、残土置き場の緑化の際に使われる土壌改良材や化学肥料などの周辺環境への配慮は如何に？	有効利用率 90%は、「静岡県における建設リサイクル推進計画 2009(平成 21 年、静岡県建設副産物対策連絡協議会)を参照しています。 なお、有効利用率は下記のとおりです。 有効利用率(建設発生土) ＝(土砂利用量の内土質改良を含む建設発生土利用量)÷土砂利用量 利用量には現場内利用量を含む。 トンネルの工事の際に発生する発生土につきましては、工事施工ヤードの造成や工事で使用する道路への活用を考慮しています。また、地権者との話し合いになります。また、地権者の考えられる事業への活用や、発生土置き場により道路沿いに一定の平場ができることも考えられるため、エコパークでの活用等幅広く相談させて頂きたいと考えています。 発生土置き場の詳細については、今後の工事計画をつめていく中で、測量や設計を進め、そして河川や治山などの二担当と調整を行いつつ、とりまとめの二担当になります。そのため、準備書では、土壌改良材や化学肥料については考慮していません。

環境要素の区分	項目名	No.	委員質問	回答
建築物 建設工事に伴う副産物等		27	<p>【宅地(委員)】伝付峠カシ沢へ発生土を捨てるために土砂排出口を掘るとあるが、カシ沢へ捨てる土砂量と、土砂排出口から出る土砂発生量は？</p> <p>さらに、伝付峠先の、崩落地を発生土で埋め尽くすことについて、その工法及び安全性、環境保全について</p> <p>その他、河川横の土砂置き場について、大雨や鉄砲水などによる土石流などの危険性についての認識は？</p>	<p>各発生土置き場の容量の決定にあたっては、今後地質調査や測量等を実施し、設計を実施していくとともに、森林法や河川法等に関連して静岡県や静岡市などの関係個所と協議が必要ですが、改めて各発生土置き場の容量はまだ決まっています。従いまして現時点ではこれ以上具体的に示すことは困難です。</p> <p>また、発生土置き場の設計において、できる限り沢部分を避けるとともに、安定した構造物となるよう、擁壁、排水設備の設置などを検討する予定です。さらに工事完了後早期には原則として土砂流出防止に有効なり面への播種や緑化を実施します。</p> <p>なお、発生土置き場の設置にあたっては、河川区域を避けることを前提としています。</p>
			28	<p>【土屋委員】①転付峠北の屋根付近に設置される発生土置き場は、他の河川沿いのもの compared to どの程度が大きいと想定される。そこでは、どの程度の残土処理を見込んでいますか？</p> <p>②①の発生土置き場は河川沿いのものと周辺環境が異なること、規模が大きいこと、を考慮した恒久的な盛土安定対策、地表面緑化(蘆土/種籾)対策を示してほしい。</p> <p>③①の発生土置き場では、その後の状況(盛土斜面、盛土内部)をモニタリング監視することが望まれると考えるが、そのような考えは持っているか？</p>
温室効果ガス等		29	<p>【宗林委員】6-9頁、表6-2-1(8)の温室効果ガスについて、航空機と比較した場合に超伝導リニアのCO2排出量が1/3となるから環境影響評価は行わないというのでは、以下の3つの理由で論理に誤りがあると思います。方法書の段階から誤りを指摘されているにも関わらず、供用時の環境影響評価を行わない理由を説明してください。</p> <p>理由(1)この見直しを行った時点と供用時では、電力供給に占める火力発電の寄与が異なるなどの理由により、CO2排出量が異なることが予想されるから。</p> <p>理由(2)航空機との比較という相対的尺度(しかも、かなり恣意的)では、地球環境への負荷を算すのには不適当だから。</p> <p>理由(3)1/3はゼロに近い数値ではなく、「1/3にも及ぶ」とみなすこともできるから。</p>	

環境への負荷

環境要素の区分	調査項目	No.	委員質問等	回答
		30	【本審委員】エコパーク登録予定地域に 対する環境影響に関する考えと対策につ いてお聞きしたい。	<p>非常口や発生土置き場などは、(過去に扱われた)電力会社が使用した工機ヤード跡地や人工林等を選定しています。</p> <p>また、本年 9 月に公表された南アルプスエコパークの計画では、当社が計画している非常口や発生土置き場などは、すべて居住や経済活動が可能な「移行地域」に含まれています。</p> <p>路線の一部は厳重に保護される「核心地域」や研究やしじやーなどに利用する「緩衝地域」を通過しますが、南アルプスではすべてトンネル構造とし、地表部は改良しません。</p> <p>今後、詳細な設計、施工計画の策定、機関と調整しながら、エコパークに影響を及ぼさないよう計画してまいります。</p>
		31	【宗林委員】照植等 3-4 頁:「懸念勾配は 40%(バピーミル(2)は)で計画する」→「は」は不要だと思います。 8-2-4-7 頁:「河川の流量 ○調査機関」→「○調査期間」だと思います。	左記のとおり修正します。
		32	【中池委員】 準備書資料編の環 7-1-1 にリストされているミヤマシシガシラの詳しい生育地とその環境、また、可能ならその証拠標本の提示を是非ともお願いいたします。	<p>本種は、主に扇沢など亜高山帯(約 2000m 以上)で確認されました。</p> <p>ミヤマシシガシラは、葉がざらざら、葉柄、中軸の裏面は暗紫褐色、胞子葉は菜菔葉の 2 倍等と特徴があり、一般的に見られるシシガシラとの違いは明らかで現地で見据により同定しています。</p> <p>標本については、現地で同定することが比較的容易な種であるため、作成しませんでした。</p>
その他		33	【三宅(後)委員】なせ斜孔(非常口)が2か所になったのか? 静岡新聞には、その理由として環境影響を低減させるためと書かれていたが、どうして2か所にするかと低減になるのか?非常口としてなら、近くに2か所も必要ないのでは。2か所になれば、発生土置場、工事ヤード、職員宿舎などすべて2倍になり、環境負荷軽減ではなく増大するのではないか	<p>静岡県に限ったことではありませんが、非常口(山岳部)及び非常口(都市部)については、営業時の方が一の場合の遊路経路としての機能面や、トンネルの延長や長さなどによって異なる施工の面、地形条件の面、環境要素等の制約条件の面から設置位置を計画しました。その結果として静岡県内における非常口(山岳部)は2箇所となりました。</p> <p>全線にわたる非常口は概ね 5km 程度に1か所設ける計画としており、静岡県内が特に多いわけはありません。</p> <p>なお、一部で斜坑が増えたかのような報道がなされていますが、非常口は準備書で初めて発表したことであり、何かと比較して増えたというものではありません。</p> <p>また、工事用道路をトンネル構造とすることで改善の範囲を小さくし動物や植物への環境影響を小さくしています。また、工事用車両の走行に伴う騒音、振動、粉じんの発生も小さくなります。</p>

環境要素の区分	項目番号	No.	回答
		36	<p>【三宅(陸)委員】東俣林道について、塵土運搬について既存の道路を補修して活用する点があるが、補修の範囲と具体的な内容を説明してほしい。機能復旧を行う作業及び舗装程度とあるがその程度とはどのくらいか？ 契約書 6-26-6</p>
その他		37	<p>【三宅(陸)委員】発生土置場に大型トラックで運搬することと思うが、そこを通過する車により、種々な問題点が発生すると考えるが、その対策は？どれくらい交通量を予測しているのか？ 土砂置き場周辺以外の道路における予別調査は実施していないが、道路周辺など考えているのか？ さらに、東俣林道を利用する、地元民や登山者の通行との調整はどうするのか？ 工事車両優先はありえないと思うが。</p>
			<p>林道東俣線は、安全面と環境面から工事が必要と考えられる補修やガードレール設置、覆い被さっている土砂を排除するといった機能復旧を行う作業及び舗装程度を想定しています。 道路舗装の範囲は工事車両の通行に必要な幅員にとどめる計画としています。 補修範囲や具体的な内容については、今後、林道管理者と打ち合わせながら決めていきます。</p>
			<p>予別交通量は準備書第8章(大気質、騒音、振動の予別条件)に記載のとおりです。また、準備書で想定した資材及び機械の運搬に用いる車両の運行台数を資料編(3-4)に記載しています。 道路周辺の動物への影響については、資料編(動物:6-2、植物:7-2)において林道東俣線等に関する動物の予別評価結果を記載しております。結果として、林道東俣線等の改修工事による動物に与える環境影響はないものと評価しました。 対策として、道路舗装の実施、車両の洗浄、適切な配車計画などを実施することで生息・生育環境に影響は及ばないものと考えます。</p> <p>建設工事におきましては、工事を行う地域の方々の安全を確保することが大前提です。 工事車両につきましても、現場の状況に応じて、出入りの際の誘導員の配置、通行時間帯の制限、物じん対策用放水設備の設置など、安全や環境の確保に万全を期していきます。 工事を行う際には、当社が関係法令や条例などを遵守することはもとより、請負会社に対しても指導を行います。 また、工事の計画、施工に際しては、地域の方々の生活に十分配慮するとともに、工事の着手にあたっては、工事説明会を開催し、ご理解、ご協力を頂けるよう努めます。 登山規制、ルート規制等については、工事の詳細な内容を固めていく段階で、必要性も含め検討していきます。</p>

環境事業の区分	事業項目	No.	委員質問等	回答
その他		38	<p>【三宅(隆)委員】エコパーク、世界自然遺産登録申請に向けての種々の問題点について 斜坑入口について、トンネル完成後、どのように復帰するのか？施設は残るのか？土砂排出口はどうするのか？</p>	<p>非常口については、供用時に避難等の出入口として使用します。 発生土置き場用のトンネルについては、坑口を閉鎖することを想定していません。宿舎等の工事で使用する施設については撤去することを想定しています。 工事で使用する道路の舗装については、道階管理者と協議の上、撤去の有無を検討します。 また、非常口や発生土置き場などは、(過去に伐採された)電力会社が使用した工事ヤード跡地や人工林等を遷定しており、本年9月に公表された南アルプスエコパークの計画では、当社が計画している非常口や発生土置き場などは、すべて居住や経済活動が可能な「移行地域」に含まれています。 路線の一部は厳重に保護される「核心地域」や研究やレジャーなどに利用する「緩衝地域」を通過しますが、南アルプスではすべてトンネル構造とし、地表部は改築しませぬ。 今後、詳細な設計、施工計画の策定、工事の実施の各局面においても、関係機関と調整しながら、エコパークに影響を及ぼさないよう計画していきます。</p>
	39	<p>【三宅(隆)委員】工事のタイムスケジュール 当然、斜坑や土砂排出孔から掘り始めると思うが、本坑に達するまでにどれくらいかの年数がかかるとは思うのか？環境影響評価とは異なると思うが、排出土砂をどのように置くかの順番などで知りたい。</p>	<p>非常口のルート及び深さにつきまして、本線のトンネルの施工等に準じた形で考えており、今後施工計画を具体化する中で決定してまいります。 想定であり場所によっても異なりますが、本坑に到達するまでの年数については、掘削開始から2～4年程度と想定しております。 また、発生土の具体的な運搬計画については、工事の詳細な内容を固めていく段階で検討していきます。</p>	
	40	<p>【和田委員】 施工概要にある、地質の悪いところをどのような方法でフェックするのか。コアがない時の対処法と断層の確認方法など。</p>	<p>本坑に並行な位置に先行して断面の小さい先達坑を掘削することで、地質の状況を把握していきます。</p>	